

教育講演

【Room 1】 12 : 30～13 : 30

SDG s ～コロナと共に生きる新しい生活

司会：近藤 暁子（東京医科歯科大学大学院）

講師：松永 早苗（神奈川県立保健福祉大学）

教育講演

SDGs コロナと共に生きる新しい生活

松永 早苗（神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 感染管理認定看護師）

世界の歴史を辿ると、人類は感染症と共に歩んでいます。新興感染症が流行する度に人類は危機に遭遇しますが、新たな文化も生まれています。菌やウイルスは、宿主に侵入してなんとか生き延びようとしています。そのため、先人たちはその脅威に立ち向かうため、抗菌剤や抗ウイルス剤、ワクチンを開発してきました。一方、菌やウイルスは、先人たちが開発した抗菌剤や抗ウイルス剤に打ち勝つ型に変化を遂げつつあります。

フローレンス・ナイチンゲールは、生活環境における感染症対策の重要性を述べた「看護覚え書」をまとめています。看護を担う私たちにとって「看護覚え書」は、現代においても色褪せない看護の原点が述べられています。「看護覚え書」は、病床環境を整える必要性が記されており、時代や文化背景に関らず、生活において実践できる感染症対策の基礎が述べられています。これら先人が経験した感染症対策の学びを、現在に生きる私たちは忘れずに活かし生活できているのでしょうか。

2019年12月ころより発生した新型コロナウイルス感染症は、世界に感染拡大し、パンデミックとなりました。日本では、空港での水際対策や三密（密集・密接・密集）対策を実施してきましたが、感染は拡大し、ウイルスは変異しています。新型コロナウイルスワクチン接種が進んではいますが、基本となる感染対策は、「看護覚え書」にも記されている先人からの学びである「手洗い」や「換気」です。教育講演では、筆者が、地域の高齢者施設、障害者施設、保育施設における新型コロナウイルス感染対策の巡回指導やクラスター対策、在日外国人の方々への支援から得た学びを皆様と共有し、新型コロナウイルス感染症と共に生き、継続できる新しい生活を考えます。

筆者：巡回指導時の写真



部屋の配置の卓上訓練



サーキュレーターを使用した換気の工夫